

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成27年3月19日(2015.3.19)

【公表番号】特表2012-533958(P2012-533958A)

【公表日】平成24年12月27日(2012.12.27)

【年通号数】公開・登録公報2012-055

【出願番号】特願2012-521106(P2012-521106)

【国際特許分類】

H 04 W 52/02 (2009.01)

H 04 W 84/10 (2009.01)

H 04 B 1/44 (2006.01)

【F I】

H 04 Q 7/00 4 2 2

H 04 Q 7/00 6 2 9

H 04 B 1/44

【誤訳訂正書】

【提出日】平成27年2月3日(2015.2.3)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0041

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0041】

例示的な実施形態において、メッセージデータのコンテンツは、多数のパケットに同様に構成される。アクセスアドレスフィールドの終りまでに、そのアクセスアドレスの検出に基づいて、スレーブ受信機は、メッセージがそれを宛先として処理するものであるか、および該メッセージに応答するかどうかを知ってもよい。メッセージがスレーブ受信機を宛先としている場合は、受信起動ウインドウを閉じてもよい。メッセージがスレーブ受信機を宛先としている場合、アクセスアドレス(303)の最後の部分は、プリアンブル(302)の開始の代わりに、受信されたパケットデータの開始として使用することができる。このようにして、スレーブ受信機を宛先とするパケットを受信した時に、Rx起動時間(306)の節約を実行できる。1つ以上の検出されたパラメータは、後述する図8および図12に示されるプロセスで、最初に図8、次いで図12のプロセスの順に渡されてもよい。